

船舶事故調査報告書

令和元年12月18日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|-------------|--|
| 事故種類 | 衝突（防波堤） |
| 発生日時 | 令和元年7月7日 11時05分ごろ |
| 発生場所 | 熊本県天草市牛深港 牛深港白瀬2号防波堤北灯台から真方位264°710m付近 （概位 北緯32°11.5′ 東経130°01.5′） |
| 事故の概要 | プレジャーヨットKUMA Ⅲは、東進中、防波堤に衝突した。 |
| 事故調査の経過 | 令和元年7月10日、主管調査官（長崎事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済 |
| 事実情報 | |
| 船種船名、総トン数 | プレジャーヨット KUMA Ⅲ、8.53トン |
| 船舶番号、船舶所有者等 | 241-4638新潟、個人所有 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、一級小型・特殊・特定 |
| 負傷者 | なし |
| 損傷 | 本船 右舷船首部外板に亀裂、主機等に濡損 防波堤 なし |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 高潮時 |
| 事故の経過 | <p>本船は、船長が1人で乗り組み、機走により約1ノットの対地速力で東進中、船長が、事前の水路調査で着棧を予定していた棧橋を左舷方に認め、同棧橋を見ながら着棧方法を考えていたところ、船首方の防波堤が間近に接近していることに気づき、左舵一杯としたものの、同防波堤の突起部に衝突した。</p> <p>本船は、船長が、衝突の衝撃が小さかったので、そのまま航行を続けて着棧し、下船後、停泊の手続きを行って帰船したところ、乾舷の減少を認めて船内に浸水していることが分かり、ビルジポンプを使用して排水を行ったものの、沈没した。</p> <p>本船は、沈没による油の流出はなく、クレーンで引き揚げられた後、造船所に上架され、右舷船首部外板の水線下部分に亀裂が認められた。</p> |
| 分析 | <p>本船は、東進中、船長が、着棧を予定していた左舷方の棧橋を見て着棧方法を考えながら航行を続けたことから、船首方の防波堤に接近していることに気付くのが遅れ、同防波堤に衝突したものと考えられる。</p> <p>本船は、船長が、衝突時の衝撃が小さくて損傷状況を確認しておらず、そのまま航行を続けたことから、右舷船首部外板の水線下部分の亀裂から船内に浸水していることに気付かず、船内に大量の海水が浸入し、沈没したものと考えられる。</p> |

| | |
|--------------|---|
| 原因 | 本事故は、本船が東進中、船長が、着棧を予定していた左舷方の棧橋を見て着棧方法を考えながら航行を続けたため、船首方の防波堤に接近していることに気付くのが遅れ、同防波堤に衝突したものと考えられる。 |
| 再発防止策 | 今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 航行中は、常時、周囲の適切な見張りを行うとともに、船位を確認すること。・ 防波堤等に衝突した場合は、衝突時の衝撃の大小にかかわらず、損傷状況を確認し、損傷箇所からの浸水を認めた場合は排水等の措置を講ずること。 |